

インストロメントローテータの製作進捗と仕様

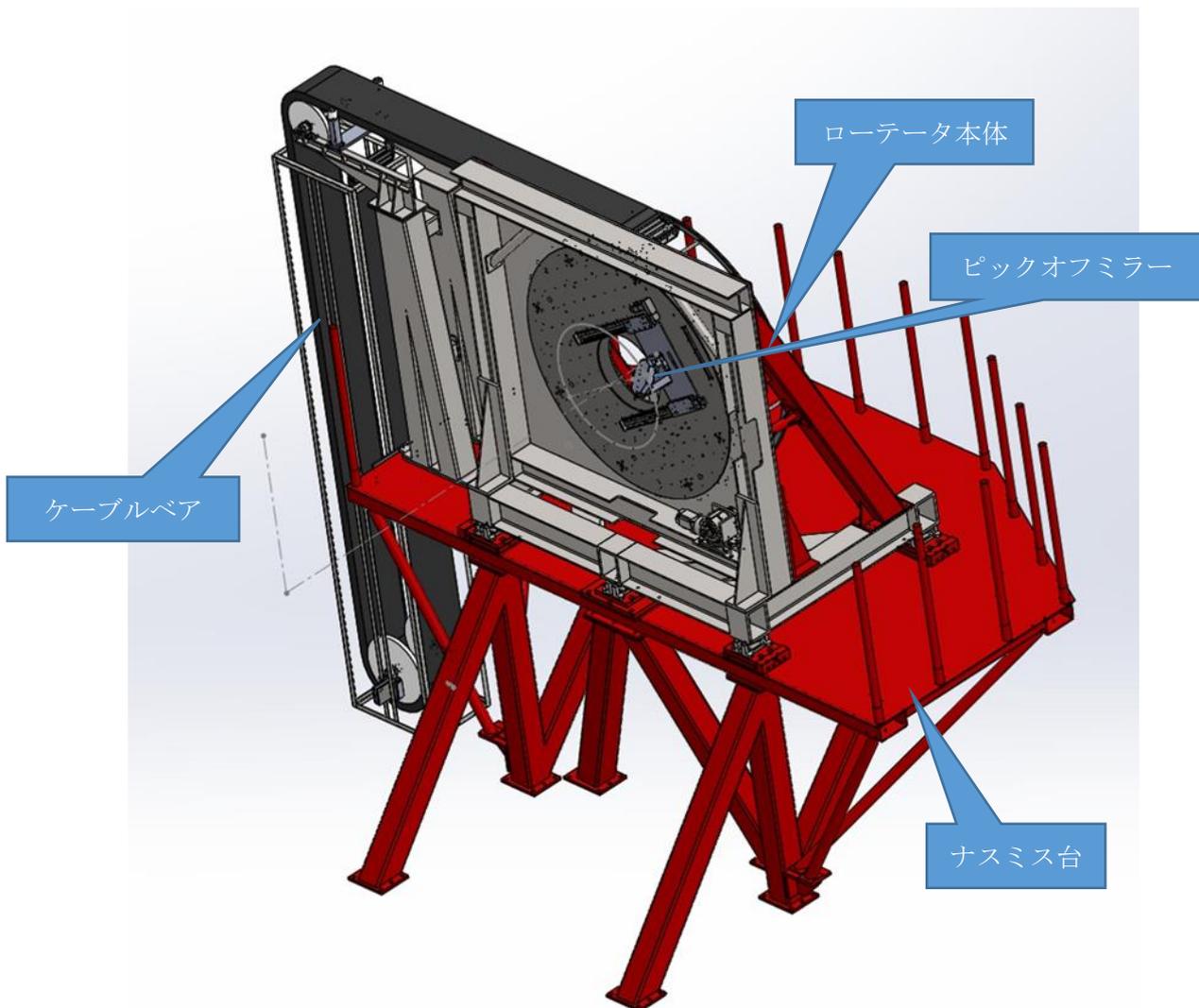
○仲谷善一、松林和也（京都大学・岡山天文台）
泉浦秀行、筒井寛典（国立天文台ハワイ観測所・岡山分室）

はじめに

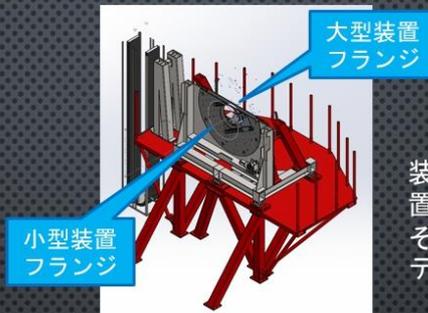
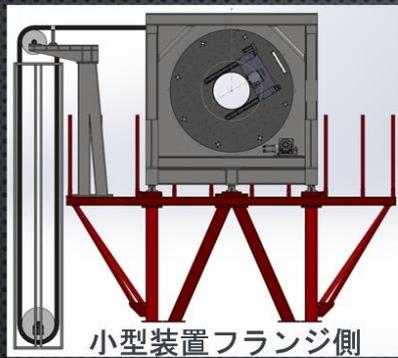
小型観測装置と大型装置を搭載し、各観測装置への切り替えはピックオフミラーの位置・向きまたは退避によって速やかに行うことができるローテータの製作を進めている。

取付を想定している観測装置は、小型観測装置が最大で 6 台、大型観測装置が 1 台にオートガイダーである。

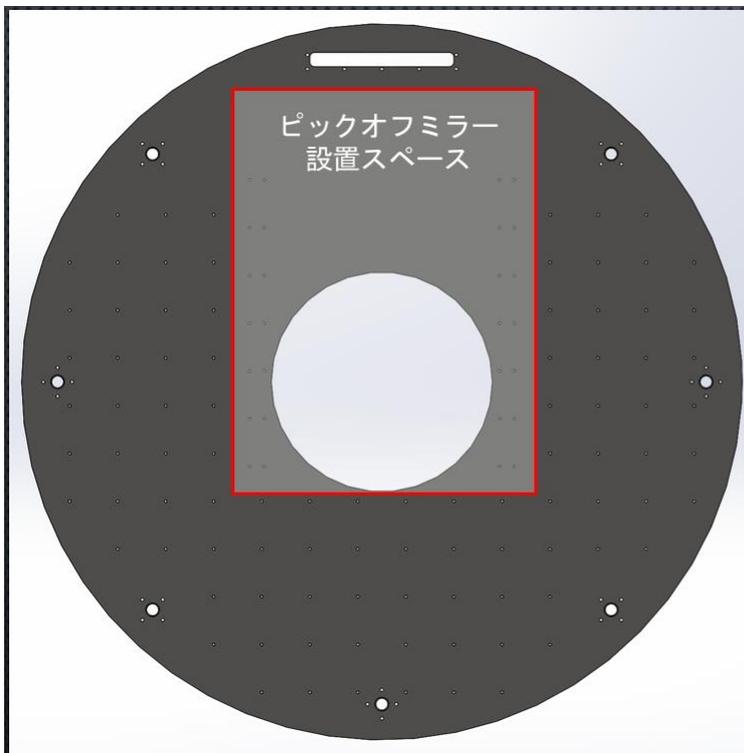
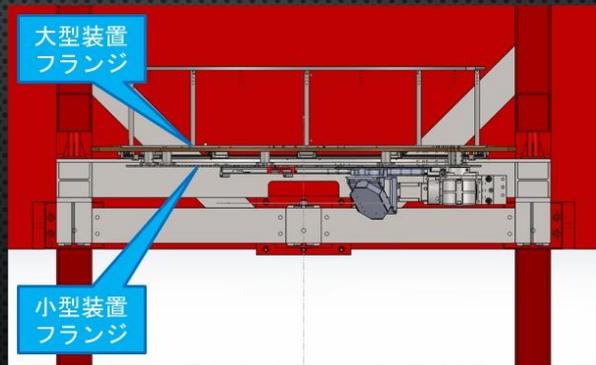
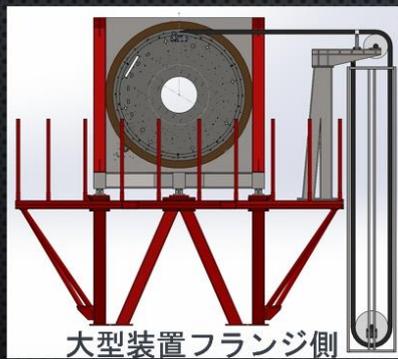
ローテータの仕様



ローテータの仕様



装置フランジは大型装置と小型装置用を用意。その間にファイバーステージを設置。



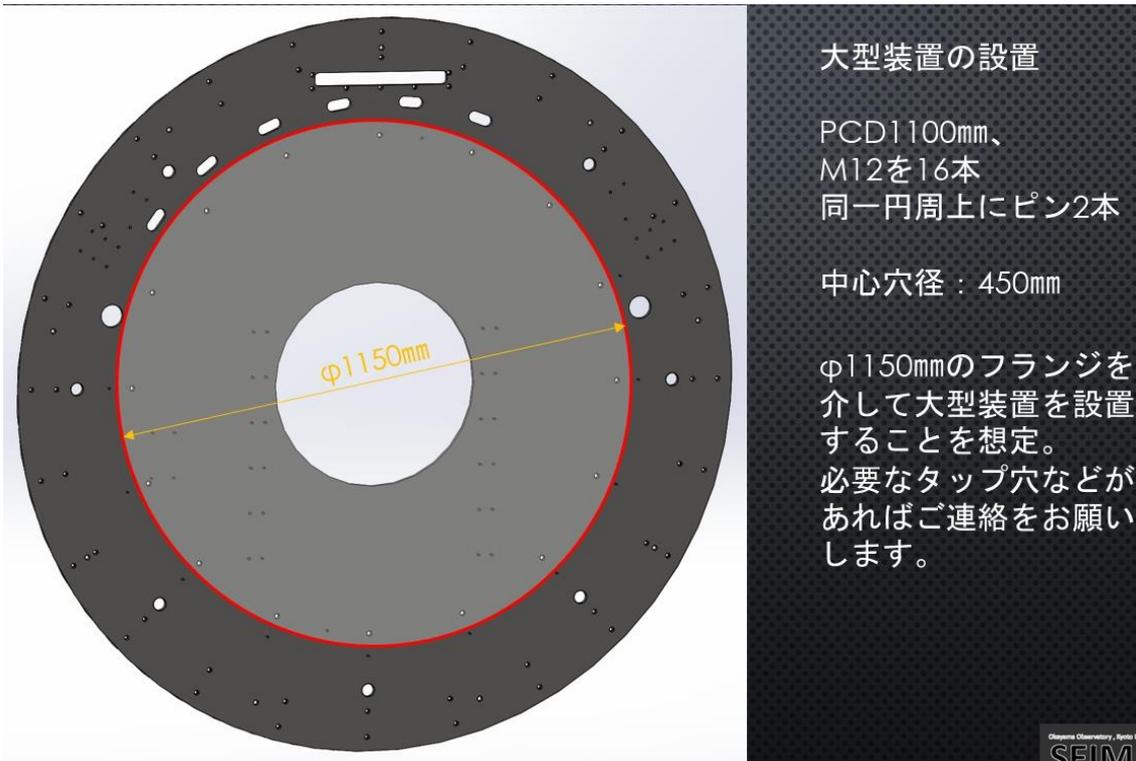
小型装置の設置

装置フランジ面にM6を100mmピッチで92本用意

中心穴：460mm

ピックオフミラーのためのリニアガイド等設置スペースを避けて小型装置を設置する必要がある。

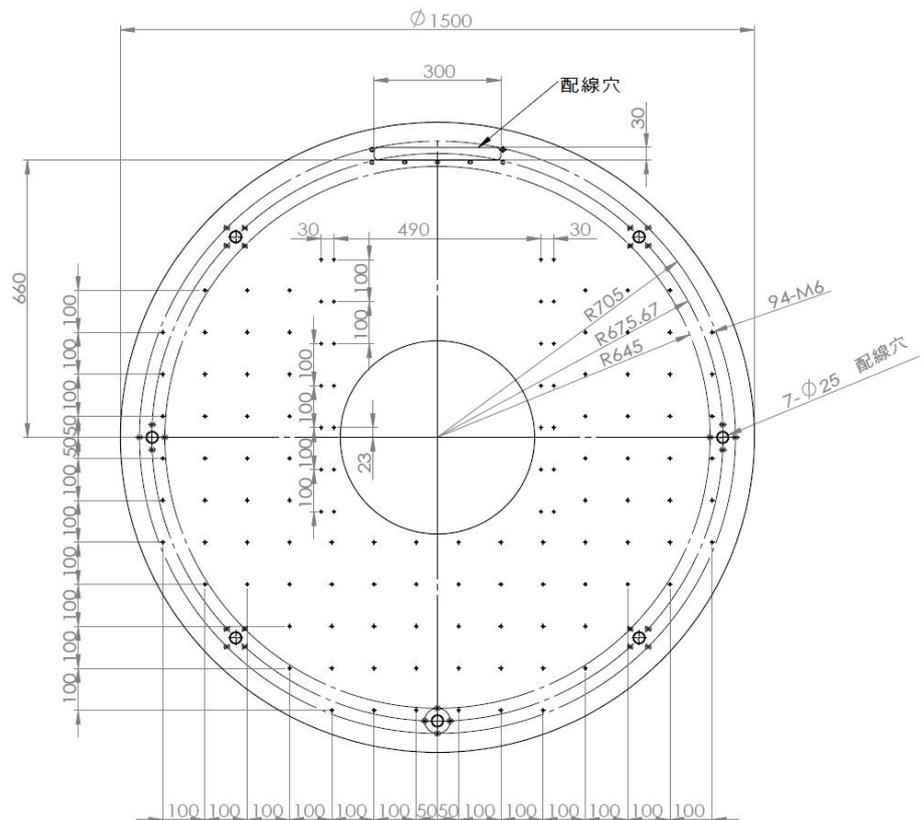
必要なタップ穴などがあればご連絡をお願いします。



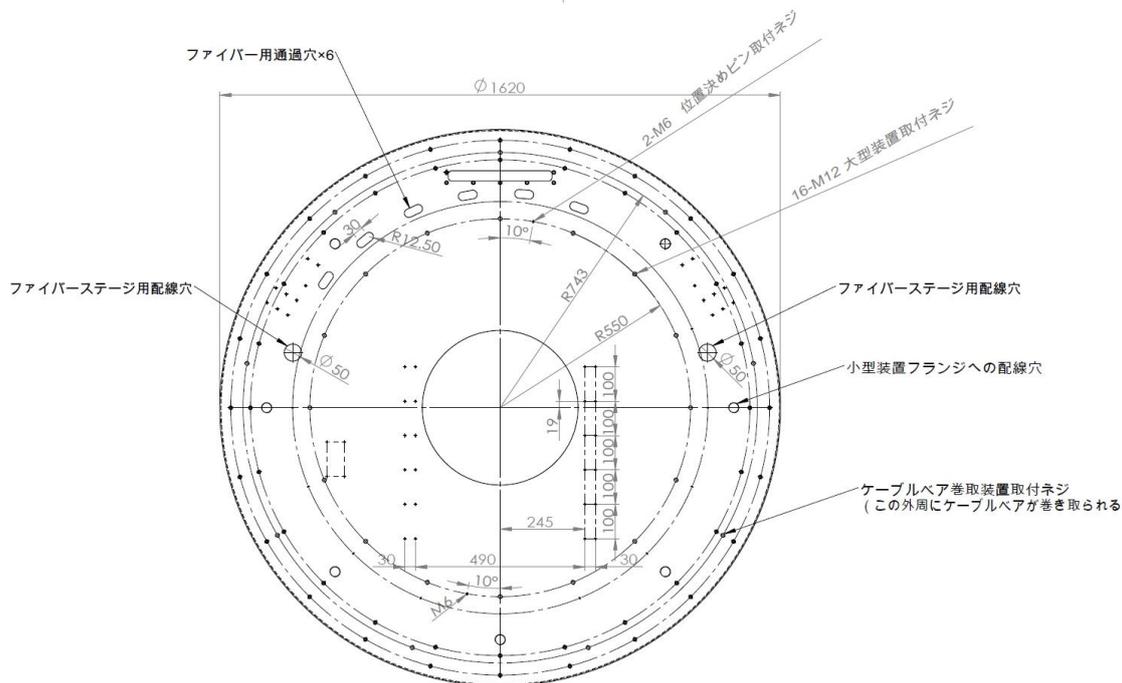
小型装置フランジ

小型装置フランジへの小型装置の設置は、フランジ面に用意した94個いずれかのM6ネジにより行う。

小型装置フランジへはピックアップミラーとオートガイダーも設置されることからそれぞれのステージ付近への小型装置の設置はできません。



大型装置フランジ



大型装置の設置はフランジ面の PCD1100 16 個の M12 ネジのいずれかを用いて行う。

その外周にはファイバー用の穴、ファイバーステージ用電源など配線穴、小型装置フランジへの電源などの配線穴、ケーブルベアの巻取装置が設置される。

今後の予定

現在、測定や調整を行いながら組立を進めている。2019 年内の設置・稼働を目指して作業を進めている。